

第14回ロボティクスシンポジウム原稿体裁について*

(副題がある場合は括弧でくくる)

田中孝之^{*1}, 鈴木高宏^{*2}

Paper Format for 14th Robotics Symposia (Sub-Title)

Takayuki TANAKA^{*3} and Takahiro SUZUKI

^{*3} Hokkaido University, Graduate School of Information Science and Technology
Kita 14, Nishi 9, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0814, Japan

When preparing the manuscript, read and observe carefully this sample. This sample was prepared using MS-word. Character size of the English title is 14 pts of Times New Roman as well as sub-title. The name is 12 pts. The address of the first author and the abstract is 10 pts of Times New Roman. Character spacing of the abstract is narrowed by 0.2 pts preferably. Abstract should be described by 100-200 words for summarizing your paper. -----

Key Words : Mechanical Engineering, Keywords List (3-5 key words are recommended.)

1. 結 言

□本稿は、第14回ロボティクスシンポジウムの投稿論文の体裁についてまとめた物である。

投稿論文は、A4用紙を用い、上下のマージンを25mm、左右のマージンを23mmとする。原稿は、6ページを基本とし、最大8ページまで認められる。ただし、6ページを超過した場合、1ページあたり10,000円の超過料金が必要となる。

□論文タイトルは、「MS ゴシック・14pts・ボールド・センタリング」とする。副題がある場合は、括弧で囲み、フォーマットはタイトルに準拠する。続いて著者氏名を「MS ゴシック・12pts・右寄せ」で記述し、所属などは、1ページ目左下にまとめる。(下部参照)。続いて英語タイトルを「Times New Roman・14pts・ボールド・センタリング」、著者名を「Times New Roman・12pts・センタリング」、所属を「Times New Roman・10pts・センタリング」で書く。

□続いて、英文アブストラクトを「Times New Roman・10pts」で、100-200語で、3-5語のキーワードを「Times New Roman・10pts」で書く。(上部を参照)

□本文のレイアウト(1ページあたりの文字数)は、文字数は24字×46行×2段=2208字とする。本文に使用する文字は、「MS明朝」で「10pts」を原則とする。

□□□□5□□□□10□□□□15□□□□20□□□□

□文章の区切りには全角の読点(、)と句点(.)を用いる。本文には、半角かな文字は使用しない。

2. 記号・単位の書き方

L : 長さ [m]

Re : レイノルズ数

t : 時間 [s]

x : 流れ方向の座標 [m]

α : 熱伝達率 [$W/(m^2 \cdot K)$]

量記号はイタリック体、単位記号はローマン体、無次元数はイタリック体で書く。

数学記号・単位記号及び量記号は、半角英数字を使用する。単位は、SI単位を使用し、4MPaのように書く。

3. 見出しの書き方

□3・1□節の字体はゴシック体□□2文字空白を空け、本文を書きはじめる。

章見出しは2行分をとって、行の中ほどに書く。(メニューの「書式」 「段落」における「インデントと行間隔」のタブで、「間隔」の段落前と段落後を5ptに設定してください。)ただし18字以上は3行分を必要とする。また、字体はゴシック体で書く。

*原稿受付 2008年10月1日

^{*1} 正員, 北海道大学 (〒060-0814 札幌市北区北14西9)

^{*2} 正員, 東京大学

E-mail: ttanaka@ssi.ist.hokudai.ac.jp

Table 2 Physical properties of air at atmospheric pressure

$T [^{\circ}\text{C}]$	$\rho [\text{kg}/\text{m}^3]$	$c_p [\text{J}/(\text{kg}\cdot\text{K})]$	$\eta [\text{Pa}\cdot\text{s}]$	$\nu [\text{m}^2/\text{s}]$	$k [\text{W}/(\text{m}\cdot\text{K})]$	$a [\text{m}^2/\text{s}]$	Pr
		$\times 10^3$	$\times 10^{-5}$	$\times 10^{-5}$	$\times 10^{-2}$	$\times 10^{-5}$	
0	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
10	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
20	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
27	1.1763	1.007	1.862	1.583	2.614	2.207	0.717
30	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
40	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
50	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
60	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
70	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
80	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
90	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx
100	x.xxxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx	x.xxx

4. 図及び写真・表の作成に関して

- (1) 本文中では、図1, 表1のように日本語で書く。写真は、図として扱う。
- (2) 番号・説明などは、図・写真についてはその下に、表についてはその上に書く。
- (3) 本文と、図・表の間は1行以上の空白を空けて、見やすくする。
- (4) 図中・表中の説明及び題目はすべて英語で書く(最初の文字は大文字とする)。
- (5) 図及び表が1列(片側)に収まらない場合2列(両側)にまたがって書くことができる。
- (6) 図及び表の横に空白ができて、その空白部には本文を記入してはならない。

4. 数式の書き方

式番号は、式と同じ行に右寄せして()の中に書く。また、本文で式を引用するときは、式(1)のように書く。

式を書くときは、2文字分空白を空ける。また、必要行数分を必ず使うようにして書く。3行必要とする式を2行につめて書いたり、2行に分かれる式を1行に収めたりしない。なお、本文と式、式相互間は1行以上の空白を空けて、見やすくする。

また、原則として数式エディタのポイント数は本文に準じるものとするが、添え字等が小さく読みにくくなるときは適宜拡大する。

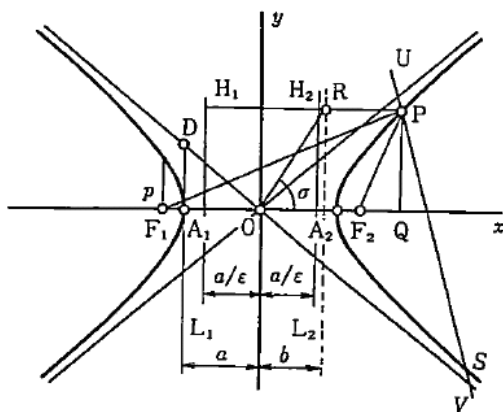


Fig. 1 Sample of clear figure

Table 1 Sample of expression of values

Recommend	Not recommend
$\sqrt{(x-y)}$	$\sqrt{x-y}$
$(a+b)/(c+d)$	$a+b/c+d$

$$\square\square \gamma(t) = ji / N \tag{1}$$

$$\square\square \bar{C}(t) = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N C_i(t) \tag{2}$$

$$\square\square C_{th} = \frac{\sum_{i=1}^N C(t)}{\sqrt{\sum_{i=0}^N (t_0 - t_i)}} \tag{3}$$

$$= \frac{b}{a} C_0$$

$$\square\square W_{th} = Q_1 \frac{\Delta T_0}{T_0 + \Delta T_0} = Q_2 \frac{2\Delta T_0}{T_0 + 2\Delta T_0} = Q_3 \frac{3\Delta T_0}{T_0 + 3\Delta T_0} = GL_0 \frac{\Delta T_0}{T_0} \frac{T_0 + \Delta T_0}{T_0} \left\{ \alpha^* - \frac{C_p \Delta T_0}{L_0} \left(\frac{T_0}{T_0 + \Delta T_0} \right)^2 \right\} \quad (4)$$

式はなるべく片側に書くことが望ましいが、両側にまたがる場合は、読み順序に混乱を生じないように、そのページの式の上、または下の本文全部を両方にまたがるように書かなければならない。本見本では、式(4)は次ページの最上段に配置しているので、以下の文章は2段組で続けることができる。

引用文献の書き方

本文中の引用箇所には、右肩に小括弧をつけて、通し番号を付ける。例えば、新宿・渋谷^{(1)~(3)}のようにする。

引用文献は、すべて英文で書き、本文末尾に番号順にまとめて書く。

6. 結 語

本テンプレートファイルのスタイルを利用すると、各々の項目の書式が自動的に利用できるのご利用ください。なお、絶対的な出来上りのレベルを保証するものではありませんので、印刷結果が望むレベルに達しない場合には、ご使用の環境に合わせて、

各自において微調整を行うなど論文集の体裁に最も近い設定を行ってください。

文 献

- (1) Takeuchi, Y., Ultraprecision Micromilling Technology (Review), *Transactions of the Japan Society of Mechanical Engineers, Series C*, Vol. 71, No.701 (2005), pp. 1-4.
- (2) Nagashima, A., New Year's Greeting, *Journal of the Japan Society of Mechanical Engineers*, Vol. 108, No. 1034 (2005), pp. 1-2.
- (3) Keer, L.M. et al., Resonance Effects for a Crack near a Free Surface, *Transaction of the ASME, Journal of Applied Mechanics*, Vol. 51, No.1 (1986), pp. 65- 69.
- (4) The Japan Society of Mechanical Engineers ed., *JSME Date Handbook: Heat Transfer*, (1979), p. 123, The Japan Society of Mechanical Engineers.
- (5) Ahrendt, W.R. and Taplin, J.F., *Automatic Feedback Control*, (1984), p. 12, McGraw-Hill.
- (6) Tsutahara, M. et al., A Study of SIS of Surfactant by the Finite Difference Lattice Boltzmann Method, *Proceedings of the 16th Computational Mechanics Conference*, No.03-26 (2003-11), pp. 121-122.
- (7) Shibutani, Y., Heinrich's Law resulted Pattern Dynamics-Part2-, *Proceedings of the 79th Kansai Branch Regular Meeting of the Japan Society of Mechanical Engineers*, No.04-05 (2004-3), pp. 205-206.